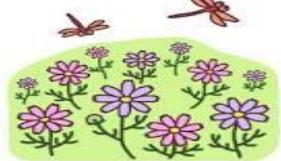


# 大阪労連女性部



## ニュース

NO. 1

2013・10・23

発行 大阪市北区錦町2-2 国会会館1F

## 第24回女性部定期大会開催

9月23日（祝）第24回定期大会を開催しました。全体で85名の参加のもと『ストップ！憲法改悪・橋下「維新の会」の暴走 実現しよう！ジェンダー平等・原発ゼロの日本』スローガンと2014年度方針を確認しました。

大会では、8単産・3地域の18名が活発な発言をされました。JMIUからは、大手IBMでロックアウト解雇をされ裁判でたたかっている原告から、「企業の非情なやりかたで職場にも入れず同僚と顔を合わすこともあいさ



つもさせてもらえないやり方に怒りを感じ許せなです。」と訴えがありました。ロックアウト解雇のリアルな発言に参加者は胸が詰まりました。また橋下「維新の会」政治とたたかう大阪市や維新の会型市政のなかで働く、地域や自治労連、福祉保育労、大教組の仲間からは、自治体での非正規労働者の解雇、福祉・医療の住民サービスの切り捨ての実態や職員・教員を条例でしぼりをかけ、ものもいえなくなった職場の現状、保育の民営化や補助金削減で子どもを守れない保育所や乳児院の実態、また教育現場での教員の長時間労働、学校間格差の深刻化など橋下「維新の会」政治が、住民の生活、教員や自治体で働く労働者の人権を無視した府政・市政は絶対許さず、私たちは運動をもっと広げたたかいましょと訴えました。

また、全国一般からは介護職場の実態や大会に参加していろんな話が聞けてよかった、発言が大会を作ると話されました。医労連からは、女性部での「権利学習会」の取り組みやフラワーアレンジメントでの交流会を行い、大阪労連女性部に結集して様々な取り組みに参加した事の発言。



労連では、「女性の働き方」アンケートの取り組み、回答を要求に掲げ職場改善に取り組んでいる発言や年金者組合からは、大会に参加して現役時代に組合活動のなかで要求をかかげたたかって権利を勝ち取ってきたが今、女性の権利が奪われてきている実態に驚いたこと。社会保障の改悪のなかでの年金引き下げを許さないたたかいを広げる運動の取り組みや組織拡大の取り組みなど元気に若々しく活動に取り組む発言がありました。

まとめでは、女性部大会で発言があった各組織の取り組みや運動を共有し、職場での運動に生かして欲しい。学習が力になり運動を広がることに繋がる。また橋下市長は今だ「慰安婦」暴言に謝罪も撤回もしていない、女性部としてもこれからも運動を強め、辞任に追い込みたい。維新をつぶすたたかいが堺市長選勝利であり、堺だけでなく大阪を守るたたかいでもあると訴えました。

新旧役員のあいさつでは、今年度をもって退任された土田副部長の長年に渡り女性部を支えて頂いたことに対して感謝の拍手で労をねぎらいました。



## 堺市長選挙の結果を受けて

2013年10月 3日  
大阪労連女性部長 鈴木まさよ

9月29日投開票の堺市長選挙は、橋下・維新の会の「大阪都構想」に反対し、市民の声に基づく市政の実現、「堺はひとつ、堺のことは堺で決めよう」と呼びかけた、現職の竹山おさみ市長が激戦を制し勝利を収めました。竹山おさみ氏が198,431票、西林克敏氏が140,569票、投票率も50.69%と市民の大きな関心が高まるなかでの圧勝でした。

「堺労連」や「住みよい堺市をつくる会」、大阪労連の支援要請に応え大奮闘いただいた加盟組織の女性部や各女性団体のみなさん、全労連・近畿ブロック女性部をはじめご支援いただいた全国の女性団体のみなさんに心から感謝申し上げます。

今回の選挙戦の最大の争点は、橋下・維新の会が強引にすすめる「大阪都構想」に政令指定都市・堺市を参加させなくすのか、それとも都構想に参加せず住民本位の医療・福祉をすすめる現市政を守るのかにありました。大阪労連女性部は、「明るい会」・「つくる会」女性連絡会とともに女性宣伝を堺市内でいち早くとりくみ、橋下氏の「慰安婦暴言」への批判と、維新の会が女性の人権を蔑にする誤った歴史認識を押しつける勢力であることや、橋下大阪市政の住民無視の市民サービス削減の実態を宣伝し、堺市民としての良識を発揮し市民の共同を広げる訴えの先頭に立ちました。

今回の堺市長選挙で示された民意は、堺のことは堺で決めるという住民自治の本来の姿であり、橋下・維新の会の強権政治が許されるものではないということに他なりません。それは「大阪都構想」の破たんであると同時に、憲法改悪、消費税増税、TPP参加、労働法制改悪などの策動を強める安倍政権の右翼的突撃隊でもある橋下・維新の会に対する明確な審判でもあります。

大阪労連女性部は、橋下・維新の会のすすめる憲法と民主主義否定の独裁政治と、住民のいのちとくらしを守る本来の自治体を壊す「大阪都構想」を断念させ、憲法を守りいかす立場からも、あらためて橋下大阪市長と松井大阪府知事に対し、暴言についての謝罪・撤回・すべての公職辞任を求める運動を府下女性団体と共同してすすめていく決意です。

